

## 【A】他チームの発表を聞き、自チームにはなかった参考になった点

他チームの発表で参考になった点は、中学生の自転車事故に注目し、「事故が起きる原因を行動・意識・環境の三つの面から整理していたこと」である。自転車は車両であるにもかかわらず、その認識が十分でないことや、一時停止無視、スマートフォン操作、ヘルメット未着用など、日常の中に多くの危険行動があることが具体的に示されていた。

また、事故の原因を中学生個人の問題だけでなく、自転車通行帯が整備されていない道路環境や、歩行者・自動車・自転車が混在している状況にも求めていた点が印象に残った。事故は運転者の注意不足だけでなく、環境によっても引き起こされるという考え方は、自チームにはあまりなかった視点であり、交通問題を考える上で重要だと感じた。

さらに、学校・家庭・地域が連携して安全教育や見守りを行う必要性を述べていた点も参考になり、交通安全は一部の人だけでなく、社会全体で取り組むべき課題だと考えるようになった。

## 【B】自チームの提案にA)を踏まえ、地方都市の交通問題をどう解決するか

これまでの授業や発表を通して、地方都市における交通問題を総合的に解決するためには、「事故を起こさないための意識づくり」と「事故が起こりにくい環境づくり」の両方が必要であると考えた。

自チームでは、「事故ゼロの街、誰もが安心して移動できる酒田市」を目標に、高齢者が関わる事故の多さや、死亡事故がゼロではないという現状に注目した。酒田市では事故件数自体は他地域と比べて突出していないものの、高齢化率が高く、判断能力の低下や見通しの悪い道路、狭い歩道などが重なり、事故が起きた際の被害が大きくなりやすいという問題がある。つまり、事故の「多さ」よりも「重さ」や「影響」が深刻である点が課題である。

ここで、他チームの中学生の自転車事故に関する発表と共通しているのは、「人の不注意や認識不足」と「道路環境の分かりにくさ」が事故につながっている点であると考えた。高齢者だけでなく、中学生や免許を取りたての大学生など、年齢に関係なく、交通ルールの理解不足や注意力の低下は事故の原因となる。そのため、特定の世代だけでなく、すべての人にとって分かりやすい交通環境を整えることが重要である。

そこで自チームでは、解決策として「レインボーロード」という光と音を活用した道路の仕組みを提案した。車線やカーブ、交差点、横断歩道など、特に注意が必要な場所を中心に光らせることで、どこに注意すべきかが自然に伝わる。文字を読まなくても視覚的に理解できるため、高齢者や子ども、外国人にも分かりやすい点が特徴である。

さらに、音による注意喚起を加えることで、視覚情報だけでは気づきにくい場面でも運転者に注意を促すことができる。視力に不安のある高齢者にとって、音は重要な情報となり、不注意による事故防止につながると思われる。また、昼間や夜間、天候に応じて光や音の使い方を変えることで、周囲への影響を抑えながら効果的に活用できる。

一方で、音や光による騒音・光害、コストやメンテナンスの問題といった課題も存在する。そのため、すべての道路に設置するのではなく、事故が多い場所や見通しの悪い場所に限定して導入するなど、工夫が必要である。

地方都市の交通問題を解決するには、他チームの発表にあったような教育や意識づくりと、自チームの提案した環境整備を組み合わせることが重要である。人の意識と道路環境の両方を改善することで、年齢や立場に関係なく、誰もが安心して移動できる街が実現すると考える。